**検討の観点と内容の特色**

『倫理』（104数研　倫理/704）

（１）内容

・第1編の各章冒頭の見開きを中心に歴史的背景にもふれながら，時代を追って先哲の思想を学ぶことができる。

・人間の生き方や価値，現代の思想的課題についても丁寧に記述されており，生徒が社会に対して主体的に寄与しようとする態度も育成できるように配慮されている。

・本文のより深い理解が可能なように，副文や脚注が随所に設けられ，参照ページも多く付されているので，他の項目との有機的な学習ができる。

・第1 編の「Thinking Time」のページおよび第2 編の各節末に「考えてみよう」のコーナーが配置され，思考力・表現力を養う機会が設けられている。

（２）構成・分量

・第1編（4つの章）と第2編とで構成。思想史を扱う第1編第2～4章では，章の下は節→項目と段階分けしてある。

・第1編第2～4章は，授業のしやすい源流思想→西洋近現代思想→日本思想の順になっており，それぞれがバランスの良い分量で配分されている。

・第1編第1章でさまざまな人間の心のあり方について考えさせ，第2～4章の先哲の考えを手掛かりにして，第2編で現代社会の諸課題を探究できるように構成されている。

・本文のほかに,ある話題について深く掘り下げる「CLOSE-UP」，生徒が倫理についてのさまざまな問題を考察し表現するための「Thinking Time」の2種類のコラムが用意されている。

（３）表記・表現及び使用上の便宜

・カラーユニバーサルデザインに配慮され，見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォント（UD フォント）が使用されている。

・生徒が自分自身で考えるきっかけとなるよう，各項目にはその項目の主要テーマについての「問いかけ」が設けられている。また，「問いかけ」に対応する本文中の記述に青色の下線が付されているので，初学者でも重要ポイントを把握しやすい。

・図・写真・資料・人物解説などがほぼ毎ページにとりいれられているので，教科書だけでも授業を進めることができる。

・まとめの表や流れ図が多用されているので，整理をしながら知識の定着を図ることができる。

（４）その他

・思想家の言葉などの文献資料や思想に関連する図版が，本文の適切な位置に豊富に掲載されており，授業の際などに参照しやすいように工夫されている。

・新しい思想や人物にも十分なページが割かれている。

・日本思想を扱う第1編第4章では写真に所蔵先の都道府県や名称が記載されており，郷土の先人や伝統・文化に興味・親しみが持てるよう工夫されている。

・「CLOSE-UP」では，「原典を読む」や「対話・議論の技能」のように，諸資料から情報を読み取る技能や他者との対話・議論に関する話題も取り上げられている。